

国内新車販売統計（2016年9月）

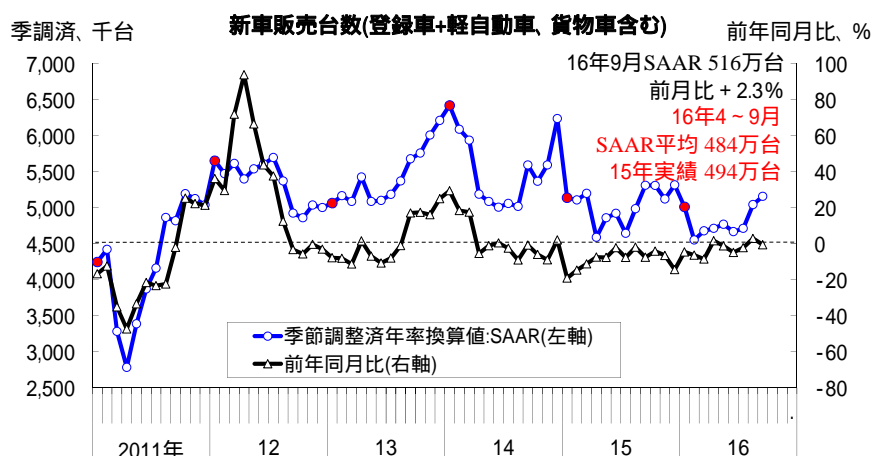
内需低調と輸出減速により、下期の国内生産に対する下方圧力は依然として強い

上期（16年4～9月）の国内新車販売台数は季節調整済年率換算値で484万台

- 10月3日発表の9月の国内新車販売台数（登録車+軽自動車、貨物車含む）は前年同月比0.5%減と2か月ぶりの前年割れとなった。季調済年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)でみた9月の販売台数は前月比2.3%増の516万台となり、2か月連続で年率500万台を超えとなった。もっとも、販売台数の中身をみると、主として軽乗用車が当月の総販売台数の増加を牽引しており、7月に三菱自動車・水島製車両の生産・販売が再開したという一過性要因が影響した可能性が考えられる。また、4～9月期の平均SAARは484万台と15年度実績（494万台）を下回っており、内需は依然低調と判断する（図表1）。
- 内訳をみると、9月の乗用車（登録車+軽）販売台数のSAARは前月比2.0%増の429万台となり（図表2）、このうち登録乗用車は同3.0%減の284万台と減少した一方（図表3）、軽乗用車の販売台数（SAAR）は前月比13.7%増の145万台と3か月連続の増加となった（図表4）。
- 貨物車（普通+小型トラック）販売台数の9月のSAARは前月比4.1%増の44万台となったが、3か月後方移動平均で見るトレンドは停滞している。貨物車の販売は16年に入ってから一進一退の不安定な動きが続き、足元では頭打ち感がある（図表5）。
- 鉱工業指数をみると、8月の生産は3か月ぶりに下落した。在庫は2か月ぶりに増加したが、健全な水準である。年初に発生した愛知県の部品会社の工場爆発事故に伴う減産分に加え、熊本地震の減産分を6月以降の挽回生産に振り向けるといった増産要因を、輸出減速（後述）が相殺してしまったことが、減産の背景にある。内需低調に加え、米国と欧州の新車市場の減速や原油・資源安を起因とする中近東及びアフリカでの景気悪化により、輸出減速が足かせとなることから、国内自動車生産に対する下押し圧力が強い状況が今後も続く見通しである。

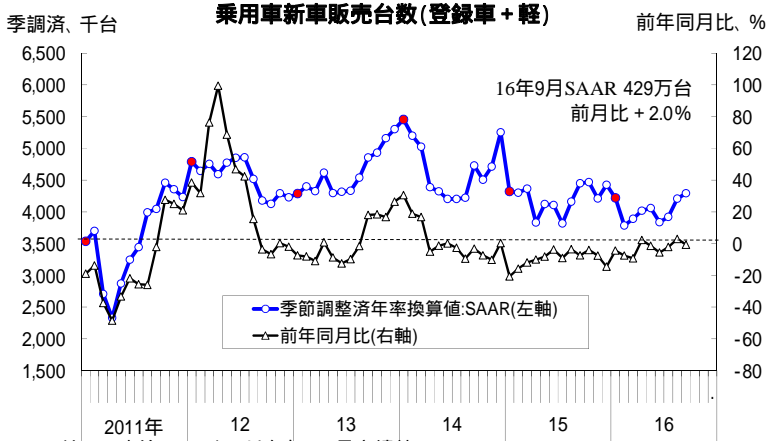
図表1 国内新車販売（SAAR）は2か月連続の増加

- 中古乗用車の8月の輸出台数をみると、下落基調が続き、底の見えない状況で、輸出金額も前年比2桁%の減少が6か月も続いている。中古車輸出市場を取り巻く環境は極めて厳しい。国内新車市場では、本年9月から主要小型車の初回車検更新台数が増え、新車の潜在需要が発生する好機となるが、中古車輸出の失速を起因とした国内中古車市況の悪化は、この買い替え需要への逆風となる。



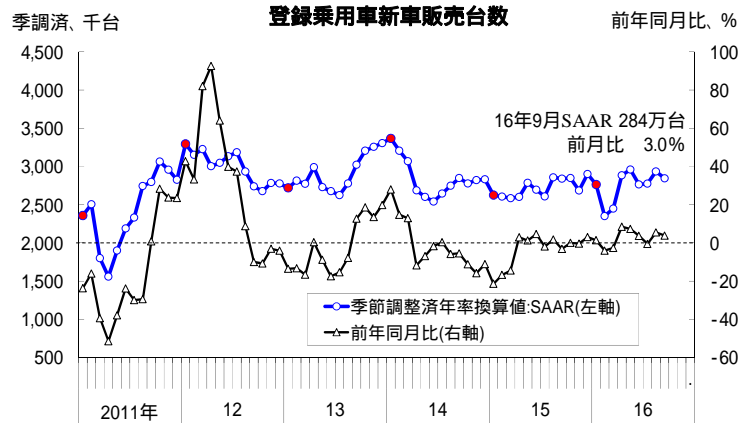
注1: 赤塗りメーカーは各月の1月実績値。
注2: SAARは米センサ入局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表2 乗用車販売(SAAR)は前月比2.0%増



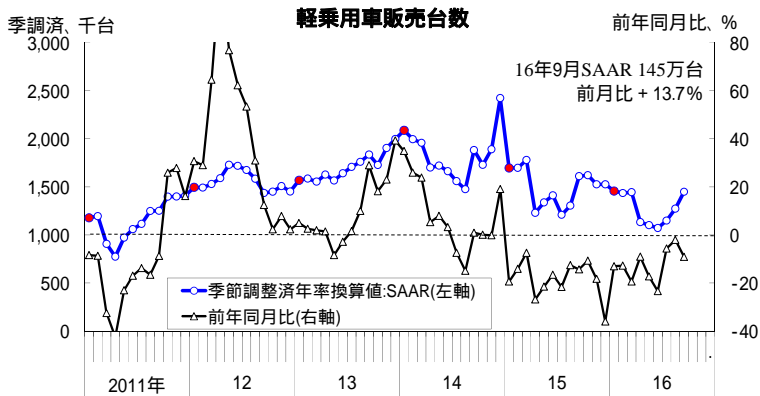
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会より作成

図表3 登録乗用車販売は前月比減少



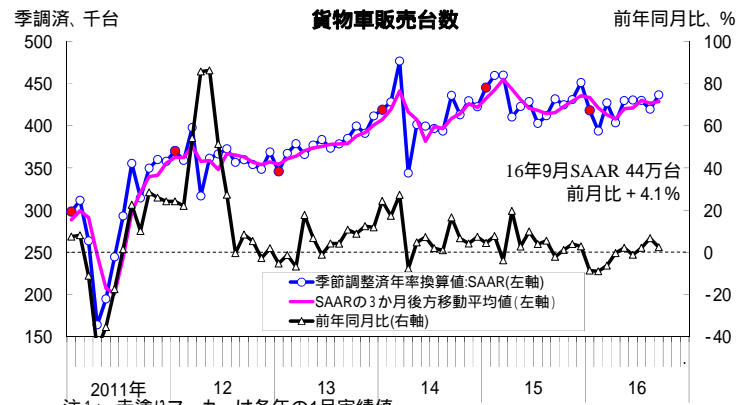
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

図表4 軽乗用車が3か月連続の増加



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表5 貨物車販売は一進一退の推移



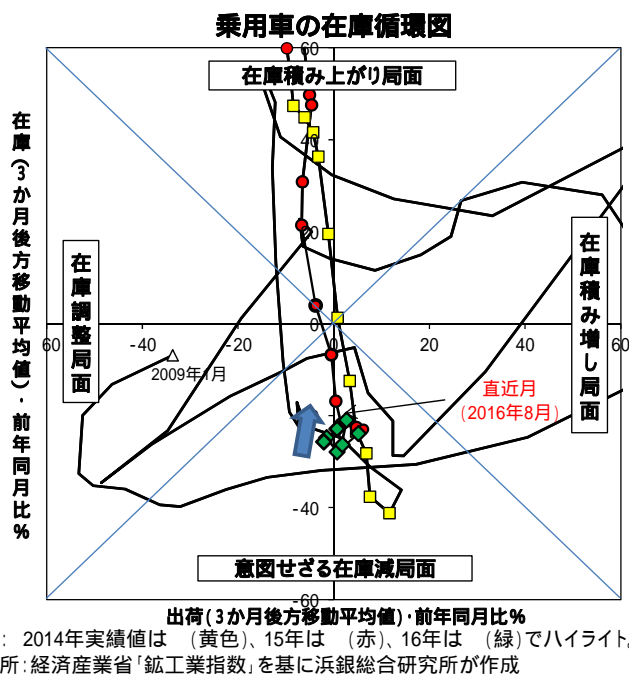
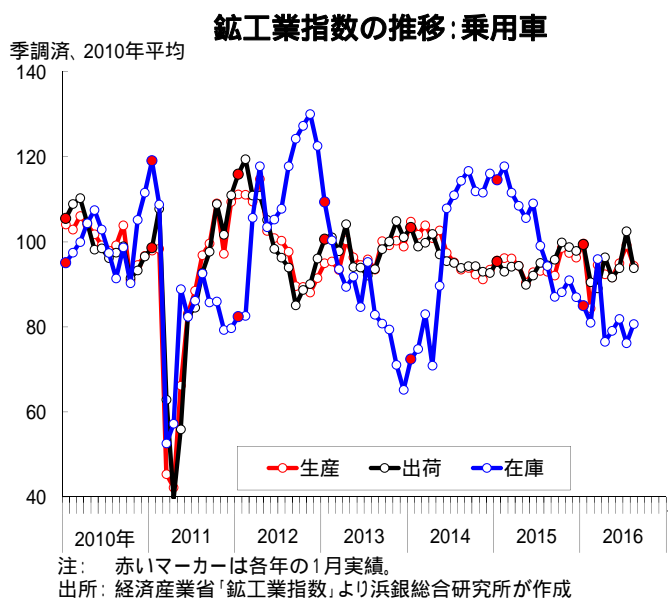
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

8月の乗用車生産指数は3か月ぶりの下落

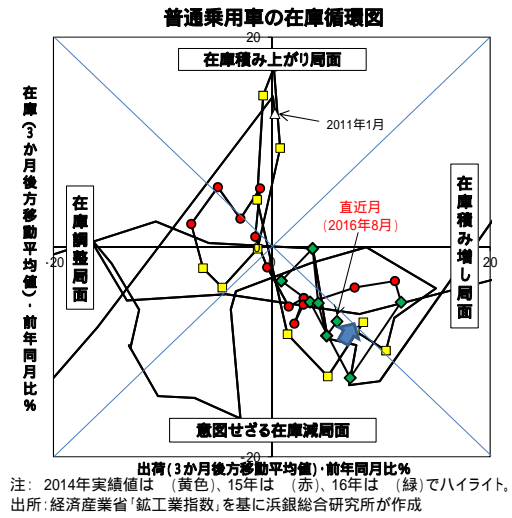
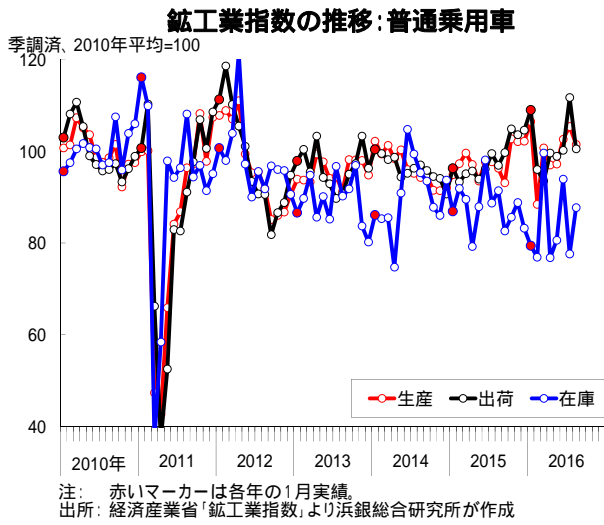
- ・ 鉱工業指数（速報値）を見ると、8月の乗用車生産は3か月ぶりの下落となった。また、8月の在庫水準も2か月ぶりに上昇した。もっとも、在庫循環図上では^(注)、7月に続き8月も乗用車生産は「意図せざる在庫減局面」にあり、在庫は健全な水準を維持している（図表6）。年初に発生した愛知県の部品会社の工場爆発事故に伴う減産分に加え、熊本地震の減産分を6月以降の挽回生産に振り向けるといった増産要因を、輸出減速（後述）が相殺してしまったことが、減産の背景にある。マクロ景気の悪化を起因とする海外での自動車需要の減速懸念は払しょくできないことと、内需低迷が続いていることから、乗用車生産に対する下方圧力が強い状況は今後も続く見通しである。
- ・ 図表7～9では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数（生産、出荷、在庫）の推移と在庫循環図を示している。8月の普通乗用車の在庫（季調値）は2か月ぶりに増加したが、生産活動は「意図せざる在庫減局面」にとどまっておろ、在庫水準は健全である。しかし、上記の理由から生産に対する下方圧力は強い状況が続こう。
- ・ 8月の小型乗用車の在庫は4か月連続の増加となった。在庫循環図上は8月も7月に続いて「意図せざる在庫減局面」となり、同セグメントの在庫水準は健全であるが、在庫増加とともに生産活動が「在庫調整局面」に近づく動きをみせており、減産圧力が高まるリスクには注意したい。
- ・ 三菱自動車水島製作所の稼働が7月に再開されたこともあり、7月に続き8月も軽乗用車生産は前月比で増加した。在庫は6か月連続の減少となった。生産は「意図せざる在庫減局面」に止まっており、在庫水準は適正であるが、需要低迷により在庫が再び増加するリスクには引き続き要警戒である。

(注) 新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫（原数値）を3か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率をX軸（出荷）とY軸（在庫）でプロットしている。

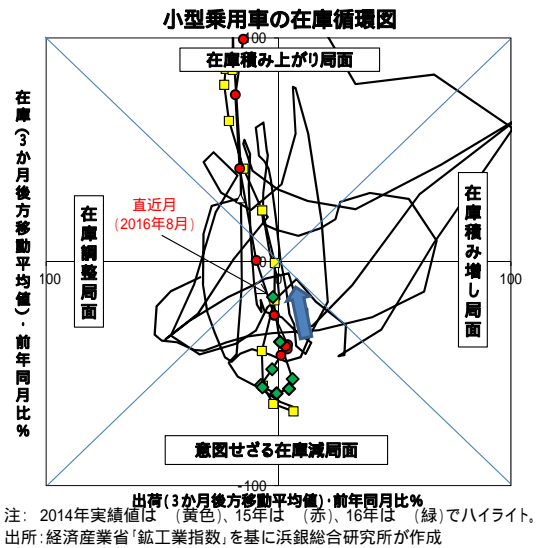
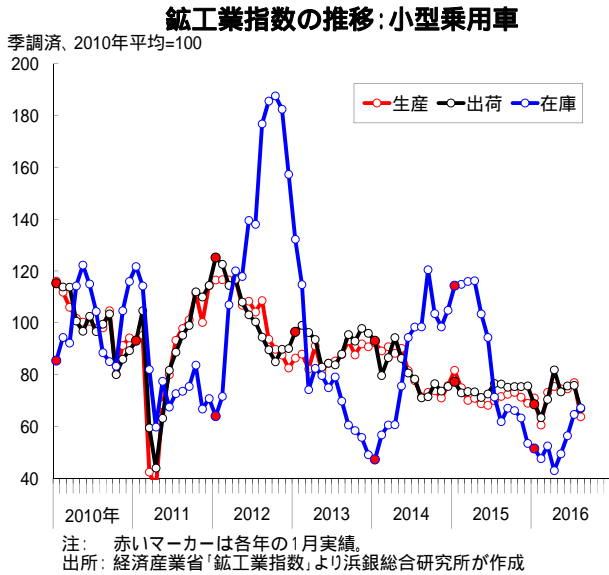
図表6 8月の生産指数は3か月ぶりの下落



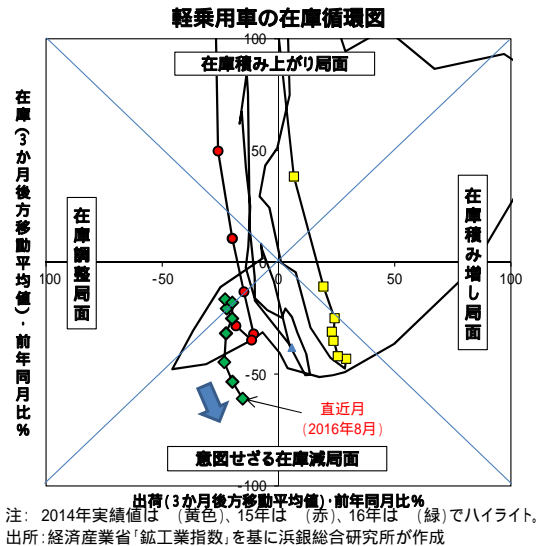
図表7 普通乗用車の生産は「意図せざる在庫減局面」が続く



図表8 小型乗用車の在庫水準は健全だが、「在庫調整局面」へと逆行する動きに要警戒



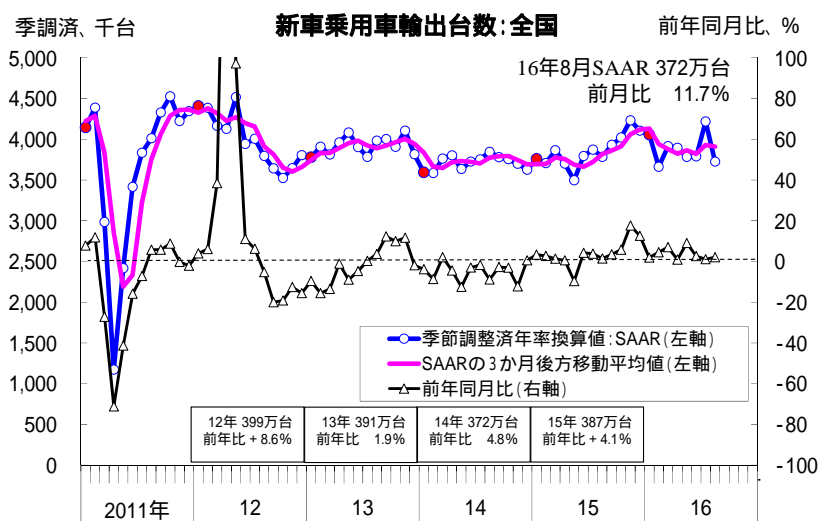
図表9 軽乗用車も「意図せざる在庫減局面」が続くが、需要低迷続き楽観は禁物



8月新車乗用車輸出（季調値）は前月比大幅減

- 9月30日に公表された8月の乗用車輸出台数（軽乗用車と中古車を除く）は前年同月比2.0%増となったが、SAARは前月比11.7%減の372万台と大幅な減少となった（図表10）。主要仕向地別でみると（図表11）、米国向けの輸出（SAAR）が大きく減少したことが輸出全体の足を引っ張ったかたちだ。
- 米国向け輸出がこれまでのトレンドから大きくかい離する形で7月に増加した背景には、①海外工場から日本に生産移管したモデルがあったことや、②北米向け新型車の輸出拡大・開始といった好材料が重なったことが挙げられるが、特に②の特殊要因による押し上げ効果が一服し、後述する米国市場での自動車需要の減速もあって、8月の減少が大きくなったものと考えられる。
- 日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR）は、8月に前月比2.2%減の1,705万台（当社試算）となった（図表12）。16年に入ってから一進一退の不安定な動きが続いている。長らく拡大基調にあった米国新車市場はいよいよ「潮目が変わった」可能性が高く、同国向けの輸出がこの先、一段と切り上がって、輸出の大きな押し上げ要因になると期待するのは難しい状況だ。
- 米国に次ぐ主要仕向け地である欧州では、8月の販売台数は前月比0.3%減と4か月連続の減少となった（図表13）。3か月後方移動平均値でみると、減少トレンドを形成し始めている。米国同様に欧州の新車販売も16年に入ってから頭打ちの状況が続いており、今後更に上向いていくと予想するのは難しい。
- 最後に、中国の8月の乗用車小売台数は4か月連続で前年同月比2桁増と堅調で、流通在庫に過剰感はない（図表14）。乗用車販売台数（生産に近い工場出荷ベース）に目を向けると、8月のSAARは前月比2.1%増となり、3か月後方移動平均値で見る増加基調は続いている（図表15）。流通在庫の過剰感が払拭されたことから、在庫削減の為の減産リスクは後退した。同国向け輸出は足元一進一退の状況だが、今後増加が続くかに注目である。
- 上記のように、中国での流通在庫の減少は好材料であるが、米国および欧州の新車市場の減速及び原油・資源安を起因とする中近東及び第3国輸出仕向地のアフリカでの景気悪化により、9月以降も、日本からの自動車輸出に対し、下方圧力が強い状況が続くものと考えられる。

図表10 8月乗用車輸出（SAAR）は前月比大幅減



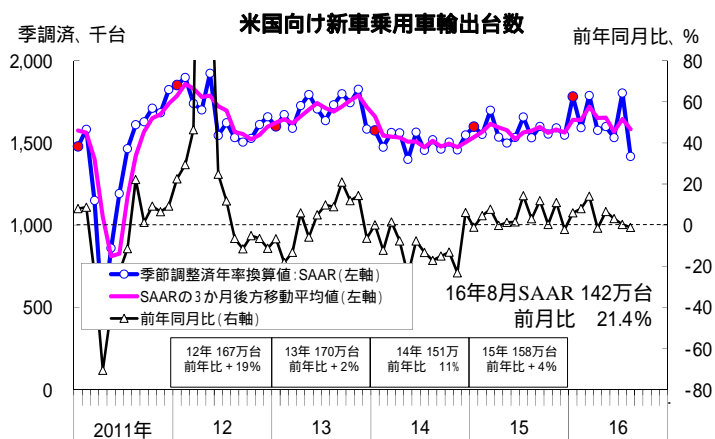
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2：ノックダウンを除く。

注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所：財務省「貿易統計」より作成

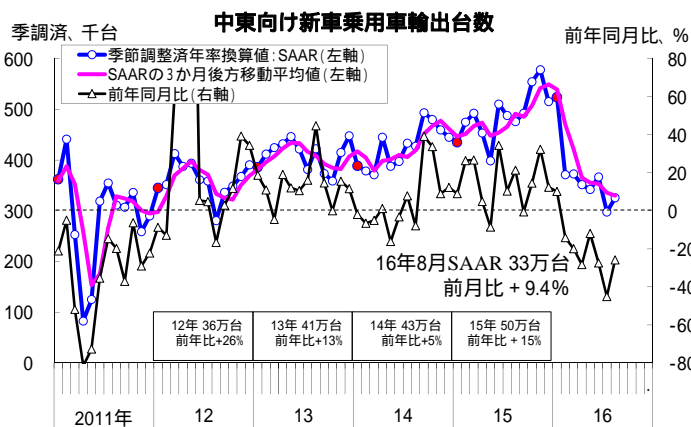
図表 11 米国向け輸出が大きく減少



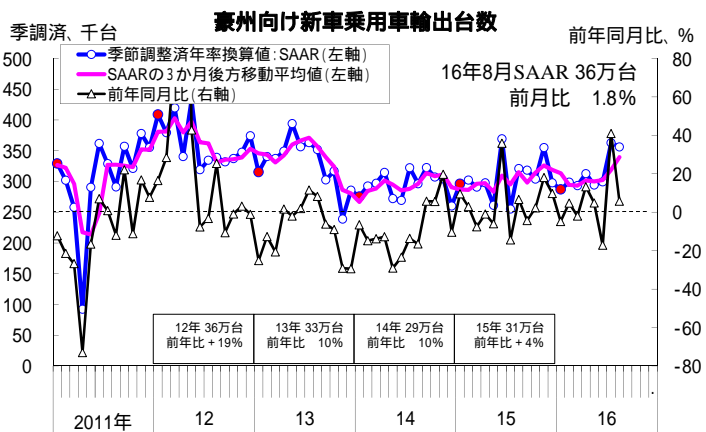
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成



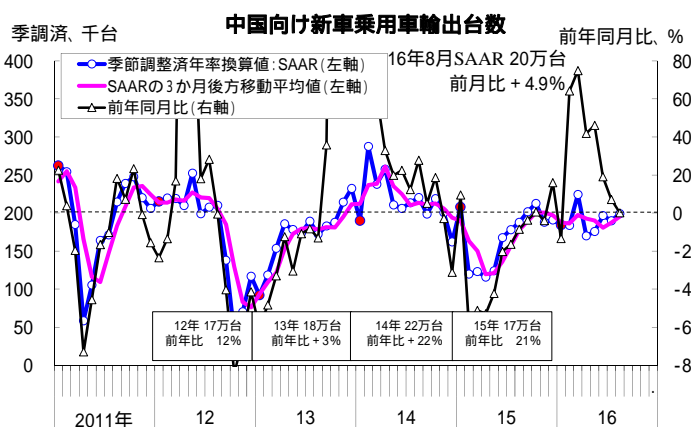
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成



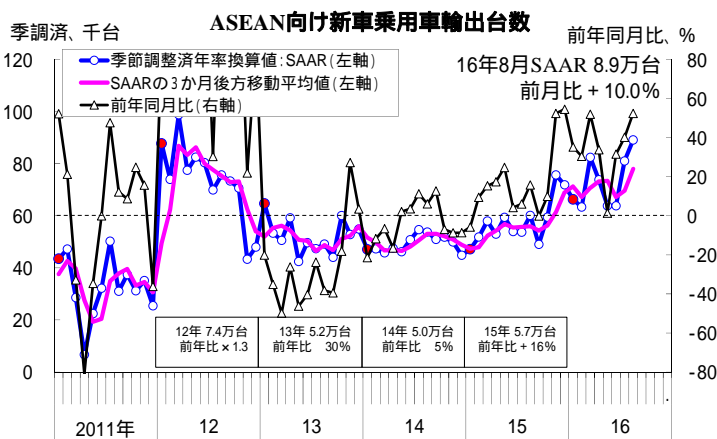
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成

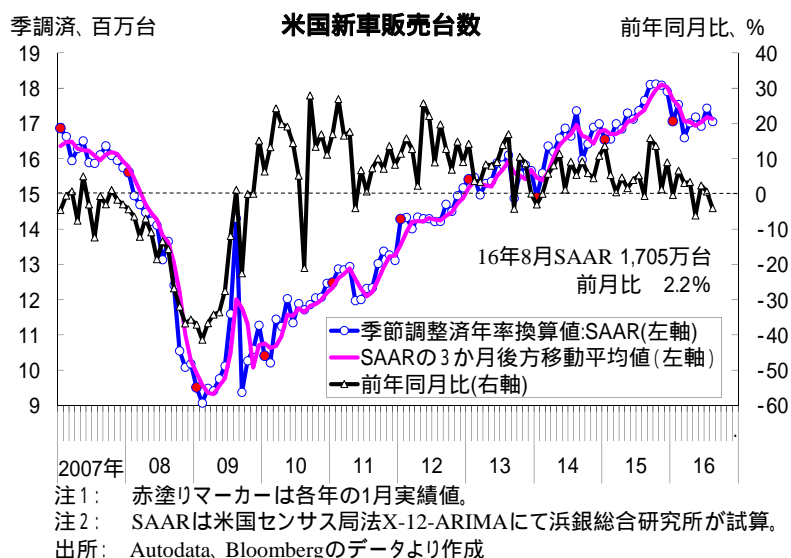


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成

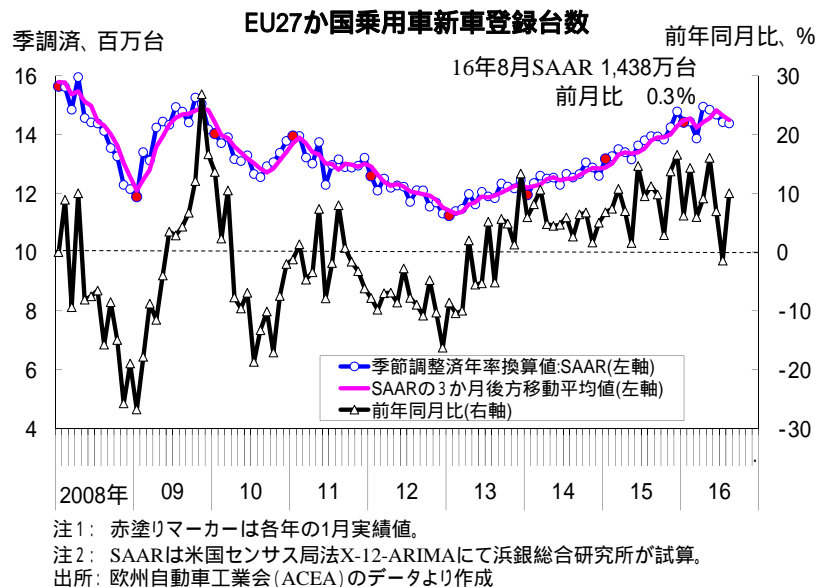


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成

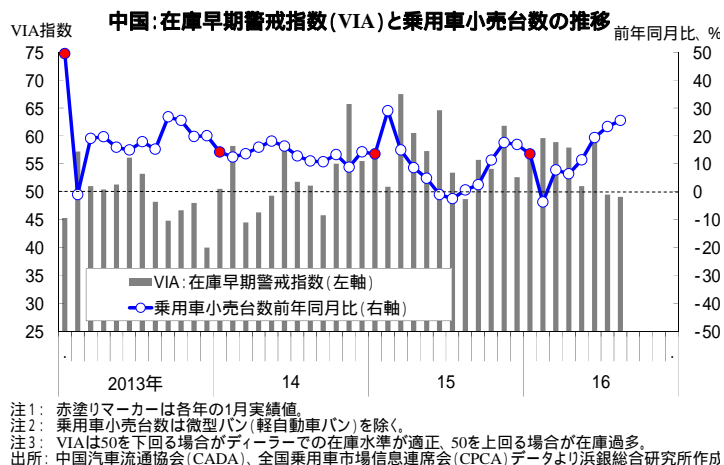
図表 12 米国新車販売は頭打ちの状況



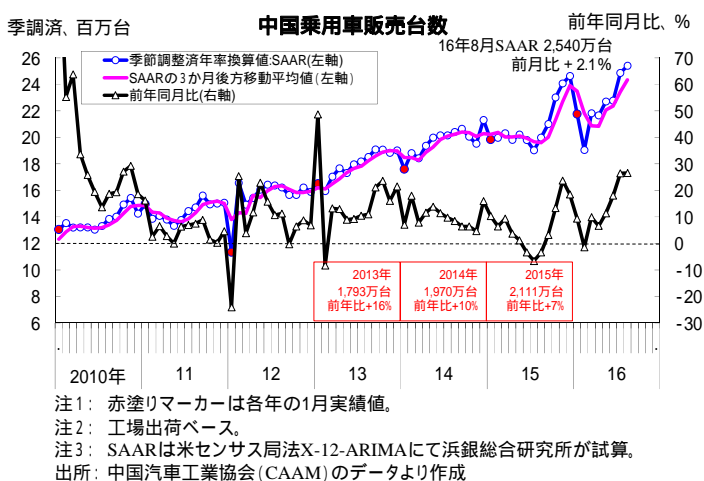
図表 13 欧州は高水準も8月まで4か月連続の減少



図表 14 小売堅調で中国乗用車流通在庫は適正水準



図表 15 中国乗用車販売は増加基調が続く



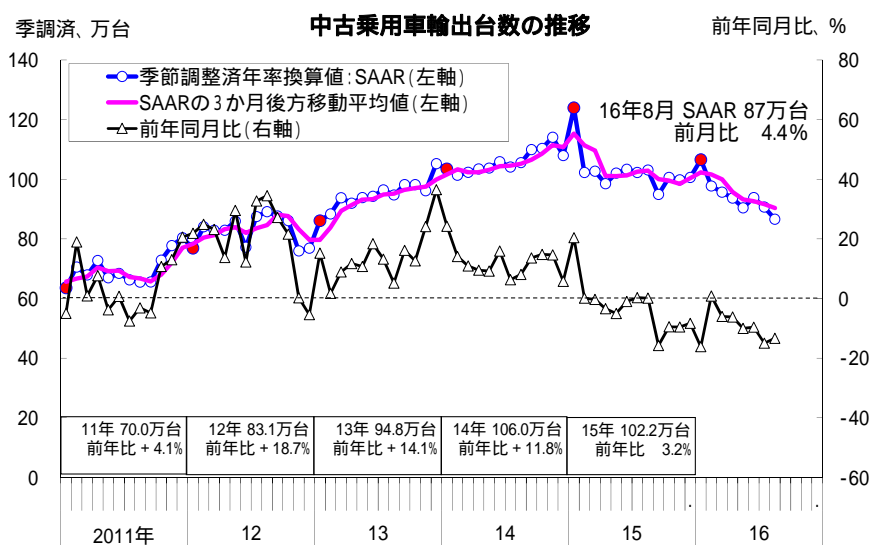
中古乗用車輸出市場の下降トレンドが続く

- 国内流通業者に注目されている中古乗用車の輸出市場に目を向けると、8月の中古車輸出台数は前年同月比13.3%減と6か月連続の前年割れとなった。SAARも前月比4.4%減の87万台と2か月連続で減少した。3か月後方移動平均でみると、下降トレンドが続き底の見えない状況が続いている（図表16）。同月の中古乗用車の輸出金額も前年同月比33.0%減と6か月連続の大幅減となり、中古車輸出市場を取り巻く環境は極めて厳しい状況が続いている（図表17）。
- 8月の中古乗用車輸出台数を仕向地別で見ると、すべての主要地域向けの輸出が減少した（図表18）。輸出価格に目も向けると、全世界向け中古乗用車のFOB平均価格は底割れはしていないものの、低調に推移している。台数ベースで最大の仕向先であるアフリカ地域向け中古乗用車のFOB平均価格は7月（37.0万円）に大きく値崩れしたが、8月（38.1万円）は前月比並みの価格にとどまった（図表19）。収益性を犠牲にした激しい価格競争が続いており、市場環境は厳しい。
- 中古車流通業者の間で高成長市場として注目されてきたスリランカ向けの8月の輸出台数（SAAR）は前月比22.4%減の1.7万台と、7月まで2か月連続の増加と持ち直していたところから一服してしまった（図表20）。5月27日に輸入自動車に対する関税が見直され、多くの主要輸入車種の関税が再度引き上げとなった中、中古軽乗用車の関税は引き下げられたことで輸出台数は増加し続けていたが、8月は前月比で減少した（図表21）。現地通貨安やマクロ景気悪化といった逆風に抗しきれなくなったと考える。
- スリランカに代わって高単価車両の輸出先として期待されているシンガポール向けの8月の輸出台数（SAAR）も、前月比8.0%減の2.2万台と2か月連続の減少となった（図表22）。同国では自動車所有権証（COE: Certificate of Entitlement）の発行数が増加しており、自動車の買い替え需要が盛り上がっているため^{（注）}、同国向け中古乗用車の輸出台数は前年比で2桁%を超える大幅な増加が続き、高い水準を維持しているが、マクロ景気の悪化が足かせとなり、輸出台数は年初から一進一退の推移となっている。

（注）COEの詳細及び買い替え需要発生との関係性は、下記リンク先の「国内新車販売統計（2016年2月）」ページ10～11を参照されたい。

<https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/shinsha1602.pdf>

図表16 中古乗用車輸出台数（SAAR）は2か月連続の減少

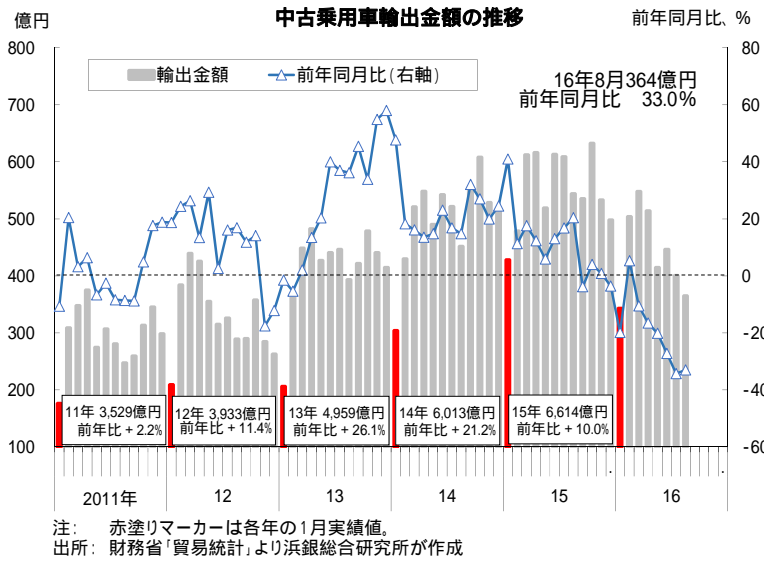


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

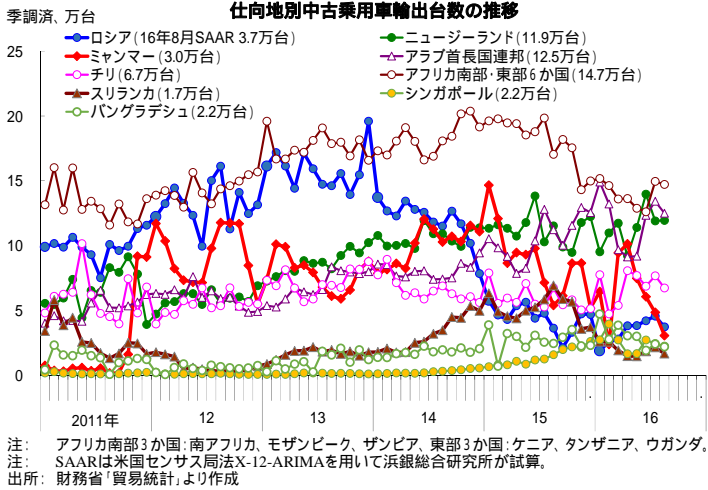
注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

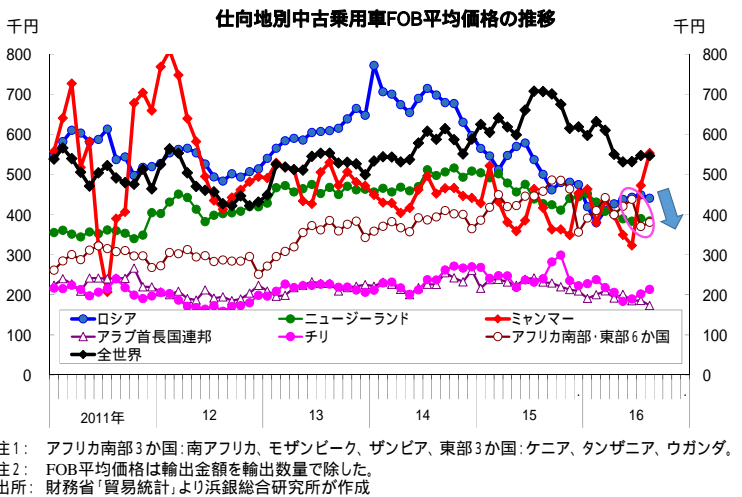
図表 17 8月の輸出金額は6か月連続の大幅減



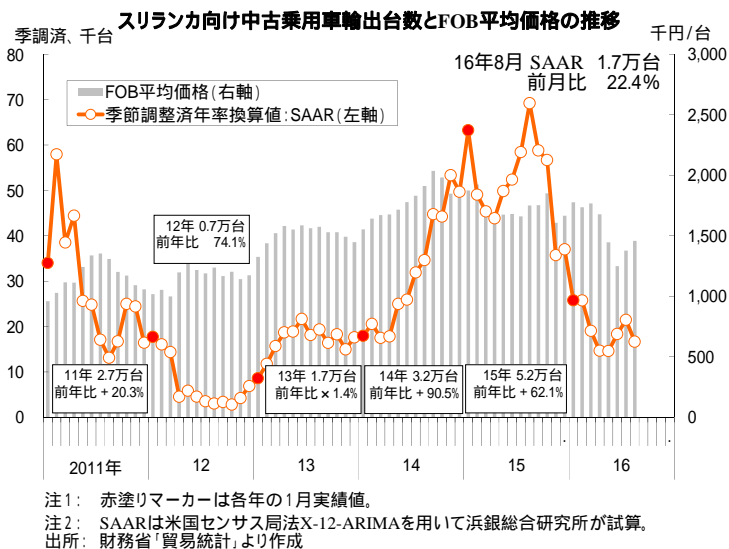
図表 18 全主要地域向け輸出が減少



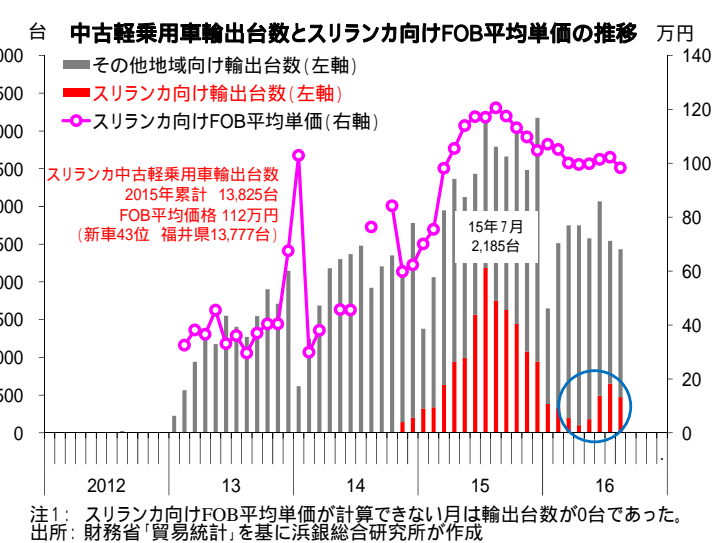
図表 19 アフリカ地域向けの激しい価格競争が続く



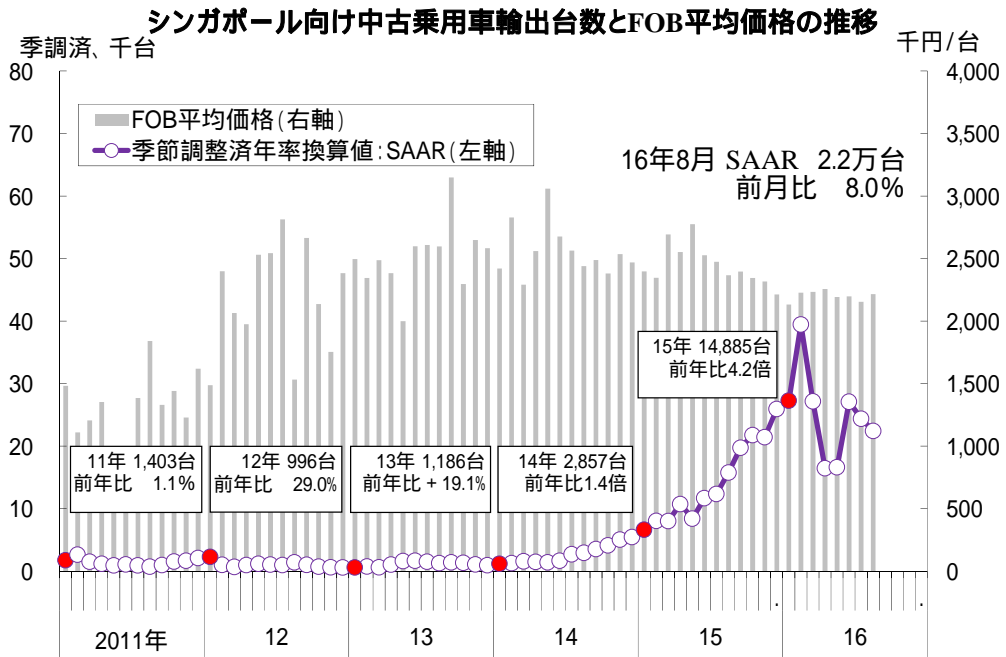
図表 20 スリランカ向け中古乗用車輸出に一服感



図表 21 スリランカ向け中古軽乗用車輸出が減少



図表 22 シンガポール向け輸出 (SAAR) は2か月連続の減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。

出所: 財務省「貿易統計」より作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎

Tel: 045-225-2375

Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。